

# 奈良県へ先進地視察に行ってきました



参加者の皆さん

平成25年8月23日（金）、地域協議会主催で奈良県天理市と桜井市への先進地視察を企画したところ、約110人のご参加をいただきました。バス3台に分乗し、『山の辺の道地域づくり協議会』に向けて出発しました。

『天理観光農園』に到着後、奈良県と天理市の担当の方からの概要説明と、地元活動組織の方から地域資源を活用した活動事例紹介をしていただきました。



また、コープ自然派奈良と契約栽培的に減農薬、有機肥料で特別栽培米『大和ひみこ米』を商品登録しています。小麦は今年から三輪そうめん用に切り替え、他に大豆を作り、味噌を加工委託し、販売をしています。後継者づくりとして繁忙期に時給制で手伝いをお願いしています。

さらに、コープ自然派奈良と提携している田んぼで、生きもの調査や収穫祭をして、都会の方と交流をしています。みんな一体で取り組む事が大事だと思います。」

【昼食】地域で穫れた食材を使ったお弁当をいただきました。

その後、桜井市に移動し、観光ボランティアガイドの方から箸墓（はしはか）古墳周辺の案内をしていただき、また、特産品である手延べそうめんの工場の中で製造工程についてビデオで説明を受けたあと、帰路につきました。

【奈良県の概要（奈良県農村振興課）】「大和平野は吉野のきれいな水を分水という形で確保し農家の方の技術もあり、美味しいお米を作れる地域になりました。柿産地で、全国2位です。梅、菊、大和茶、施設園芸もやっています。それぞれの時代に工夫をしながら農業を進めています。

- ① イベントにより奈良の美味しい食の発信。
- ② 農産物のブランド化。特産品を作る。
- ③ 意欲ある農家の支援。
- ④ 賑わいのある農村づくり。」

【南檜垣の農地・水保全活動の紹介（活動組織代表）】「30数軒で18haほど耕作しています。機械はトラクターしか持たず、JAのリース事業で機械を借りることでリスクを減らしています。省力化し、農地を少人数で守る。儲けよりリスクを少なくするよう心がけています。」



天理観光農園での昼食



箸墓古墳周辺での説明



手延べそうめん製造工程説明

## お知らせ

★にぎわう農村フォトコンテスト作品を募集します。

●テーマ：まるごとの活動に関して、笑顔があふれる賑やかな様子

●応募期限：平成25年11月22日（金）【当日消印有効】

●サイズ：2L版サイズのプリントもしくは、写真データ（JPG）

●表彰：平成26年2月1日（土）に開催予定の『人・生きものにぎわう農村フォーラム“2013”』にて優秀作品の表彰と応募作品の展示をします。

●主催、応募先：滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会  
◆詳細は地域協議会のホームページをご覧ください。



## 編集後記

★記録的猛暑と言われた今年の夏も終わりを告げ、一気に秋の気配を感じられるようになりました。

実りの秋に相応しい、おいしそうな旬の食べ物が店頭に並んでいますが、おなか周りと相談しながら、食欲の秋を完全に満喫できないのが残念です。（A.W）

## 滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会

- 本協議会は、活動組織への支援や、採択手続き、交付金の交付事務などを行っています。
- 書類作成にかかる参考資料や活動事例などの情報をホームページでお知らせしています。

農村まるごと

検索

<http://www.shiga-nouson-marugoto.com/index.html>

Email: [kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com](mailto:kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com)

# まるごとだより 第26号

にぎわいある農村をみんなで守り育てよう

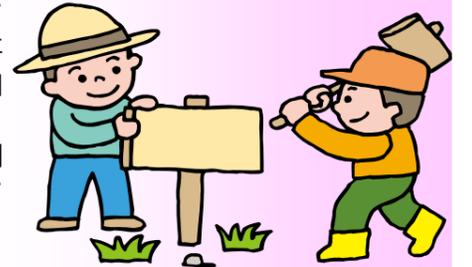
## 国の実施要綱・要領の一部改正により様式などが改正されました

国の『農地・水保全管理支払交付金』実施要綱と実施要領などが改正され、様式などもいっしょに一部改正になりましたのでお知らせします。

### 共同活動 鳥獣害防護柵の更新・新設について（拡充）

平成24年度まで、鳥獣害防護柵については、「更新」だけで、「新設」は認められていませんでしたが、今年度から、『遊休農地発生防止のための保全管理』の一環として、活動組織構成員の合意があれば「新設」することも可能となりました。工事実施に際しては、以下の点に気をつけてください。

- ① 設置工事の際は、他の工事同様、業者に全面委託することなく、危険の無いよう、可能な範囲で一緒に取り組んでください。
- ② 防護柵設置後も、農地の草刈りや害虫駆除などを適正に行い、遊休農地の保全管理の観点から、耕作可能な状態に農地を保全してください。
- ③ 害獣捕獲機材（箱わな等）を支援交付金で購入することはできません。
- ④ 害獣捕獲機材を取り扱うための免許取得費も交付金から支出できません。
- ⑤ 鳥獣害防護に対する国の他の事業と併せて交付金を使用することはできません。他の事業が県市町単独事業の場合は、県市町とご相談ください。
- ⑥ 国の他事業で設置した防護柵のさらに内側や、上に高くするための補強工事等については、別途ご相談ください。



### 向上活動 1. 高度な農地・水の保全活動の拡充（4つの工種を追加）

- ① 末端ゲート、バルブの自動化など
- ② 給水栓、取水口の自動化
  - ・関係土地改良区などの事前協議が必要です。
- ③ 畦畔法面に対するカバープランツの設置
- ④ 小段（犬走り）の設置
  - ・・・以上の4工種の取組が新たに追加になりました。



### 2. 高度な農地・水の保全活動に係る交付単価（水田）に1,500円/10aが追加

平成24年度は、1,000円/10aの交付単価だった活動組織も、今年度からは1,500円/10aに変わる場合がありますので、再計算をしてみてください。

## 目次

☆国の実施要綱・要領の一部改正により様式などが改正されました

☆ニゴロブナフェアを開催しました

☆わたしたちもがんばっています！  
「世代をつなぐ牧づくり協議会」（大津市）

☆米原市の「まるごと対策」をご紹介します（米原市）

☆奈良県へ先進地視察に行ってきました

発行 2013.10

滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会

〒521-1224

東近江市林町601番地  
水土里ネット滋賀内

電話 0748-42-4806

FAX 0748-42-5574

Email: [kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com](mailto:kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com)

nouson-marugoto.com

## ニゴロブナ(25627)フェアを開催しました

滋賀県では、今年、平成25年6月27日が「に・ご・ろ・ぶ・な」と読めることになみ、ニゴロブナなど湖魚が遡上・産卵・成育する6月を、「ニゴロブナ(25627)フェア」と位置づけ、田んぼや排水路を魚類が行き来でき、産卵・成育できる水田環境を取り戻す「魚のゆりかご水田プロジェクト」をより多くの方々に知っていただくよう県内各地で各種イベントを企画・開催しました。

魚のゆりかご水田で収穫されたお米の試食・販売・PR等のオープニングイベント(平成25年6月1~2日: 大津パルコ)を皮切りに、環境船「めぐみ」に乗り、沖島見学や魚のゆりかご水田周辺水路での生きもの観察、昼食で湖魚等のお弁当を味わってもらうクルージングツアー(平成25年6月8日)や、ニゴロブナでつながる人々と琵琶湖をテーマに、琵琶湖と水田と魚の関わりについて考えるニゴロブナフォーラム(平成25年6月29日: 草津市民交流プラザ)などを開催し、多くの方々に参加いただきました。

本県においては、今後も継続して、水田の持つ多面的機能の重要性・必要性に関する情報発信を行うとともに、琵琶湖の湖辺域だけでなく、平野部から中山間部においても生態系に配慮した、「豊かな生きものを育む水田づくり」の活動の輪を広げ、人も生きものにもぎわう農村となることを目指していきたくと考えています。

【滋賀県農政水産部農村振興課にぎわう農村推進室】



オープニングイベント  
(H25. 6. 1~2)

ニゴロブナフォーラム  
(H25. 6. 29)



## わたしたちもがんばっています！

世代をつなぐ牧づくり協議会

代表 古家 輝二 (大津市)

わがまち大津市牧町は、大津市の最東部に位置し、平成19年度に「まるごと保全対策」が開始された当初から、『世代をつなぐ牧づくり協議会』という活動組織の名称で、取り組みを始めました。

当集落の農業者の高齢化、混住化の進展により、基幹水利施設や農道等の施設維持管理については、農業者だけでなく、住民が一体的に保全活動に取り組む必要があり、農地・水保全向上対策について、機能診断、計画、実践と一体的に実施し、環境保全活動については、魚類、ホタルなどの生態系に配慮した、生息環境の管理保全を行い、加えて環境こだわり農産物の生産に取り組む方向でスタート致しました。

特に、環境保全活動では、用水路に錦鯉を放流し、生態系に配慮した、開水路の活用、水環境向上にはホタルの育成を行い、ホタル観賞会を開催、集落が一体となって取り組んできました。

また、環境こだわり農産物の生産品として、コシヒカリ(水稻)の緑肥料栽培(ヘアリーベッチ)に取り組み、環境こだわり農産物、はなふじ米として安心安全な、高品質米として販売する実績が評価され、(農)ふあーむ牧が24年度大津市地域農業功労賞環境こだわり農産物部門を受賞しました。

平成24年度からの共同活動実施目標として、老朽化が進む農業用排水路施設の補修・更新で長寿命化活動に取り組み、向上活動の長寿命化を平成25年度に採択され、今後4年間事業を実施していきます。

水環境保全では、毎年実施しているホタル育成事業の一環として、牧町の子ども育成会、上田上幼稚

園児の協力で観賞会の啓発ポスターを製作し、学区市民センター、町内掲示板に掲出し案内したところ、当日(6月8日)には町内外から70名以上の参加をいただき、ホタルが育つ牧町の水環境保全向上の啓発につながるものと期待しております。

また、今年度より景観保全活動として、休耕畑地を活用したコスモスの植栽に取り組んでいます。5月30日には上田上幼稚園児が種蒔きを体験、6月1日には町内有志で播種を行なうなど、地域が一体となって、コスモス園にきれいな花を咲かせることで景観形成、住民憩いの場となるよう取り組んでいます。

このように、少子高齢化が進む集落ですが、農地の保全、水環境保全等を農家・非農家・地域住民との連携、幼小学校(園)との交流をとおし一体となって我々が住む農村環境を守り、期待を抱いて次世代に引き継いでいくための息の長い活動を実施していきます。



幼稚園児のコスモス種蒔



地域みんなでコスモス種蒔



←啓発ポスター

↓ホタル鑑賞会の様子



## 米原市の「まるごと対策」をご紹介します

米原市 農政課

米原市は、昔から交通の要衝として、中山道と北陸道の分岐点として発展してきました。

現在においても、鉄道や国道さらには、高速道路においても結末点が多い交通の利便性の高い場所でありながら、滋賀県のシンボルと言える伊吹山と琵琶湖に囲まれ、田園風景が広がるのどかな町並みが広がっています。また市内には、きれいな川が多く、特別天然記念物に指定されているゲンジボタルが見られ、また、絶滅危惧種であるハリヨも生息する川では、希少植物の梅花藻も見ることが出来る自然豊かな町です。

米原市の「まるごと対策」も2期目に入り、共同活動20組織が地域の特性を活かした取り組みをされています。また、向上活動は3組織が取組んでいます。今回は、向上活動の中でも、高度な農地・水の保全活動に取り組まれている「山室保全会」をご紹介します。



【木道改修】

「山室保全会」の皆様が活動されている地域には、山室湿原という湿原があり、東西約90m、南北約170m、周囲が約500m、面積1.5haの規模の湿原で、ほとんど人為的影響を受けていない原始の姿を

今に残している極めて自然度の高い湿原があります。山室湿原は、木で造られた遊歩道が設置されており、湿原に生息する生き物や植物を観察できる空間が整備されています。

「山室保全会」の皆様におかれましては、山室湿原の生態系を壊さないように、注意を払いながら、山室湿原の遊歩道の補修や雑木の枝払い、手すりロープの点検や張り替えなどメンバーで協力し助け合いながら、山室湿原を守っていく活動を取組まれています。

中でも、山室湿原観賞会では、県内外からの参加者や小学生やPTAの方など、様々な組織で構成された約300人が参加され、山室湿原に生息する生物などの観賞会が行われています。



【湿原観賞会】

このように、「山室保全会」の皆様におかれまして、地域の特色を活かしなが、様々な方と一緒に、地域をまるごと保全する取り組みに努められています。他にも、米原市内には、地域で丸となって、田園空間をまるごと保全されているお手本となるような活動組織がたくさんあります。最後に、農業者だけでなく、地域一丸となって、みんなで地域の自然が守られるような取り組みが広がることを期待しています。



【米原市シンボルキャラクター】

## お知らせ

★『人・生きものにぎわう農村フォーラム“2013”』を開催します。

- 期日：平成26年2月1日(土)
- 場所：滋賀県立男女共同参画センター(近江八幡市鷹飼町80-4) TEL:0748-37-3751
- 内容：フォトコンテスト表彰/基調講演/パネルディスカッションなど
- 参加費：無料 ●募集定員：300名先着順
- 応募：滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会事務局  
TEL:0748-42-7144 FAX:0748-42-5574まで

★今年は、滋賀県魚のゆりかご水田推進協議会と合同で開催する予定です。

★詳細は後日、チラシにてご案内します。まずはご一報まで。

